

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：アスク吉野町保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：石川 千里	定員（利用人数）：48名 （利用人数：47名）
所在地：〒232-0013 横浜市南区山王町3-24-8 港横浜ビル1階	
TEL：045-250-5512	ホームページ： <a href="https://www.nihonhoiku.co.jp/blog/yoshinocho/">https://www.nihonhoiku.co.jp/blog/yoshinocho/</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日： 2007年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 日本保育サービス	
職員数	常勤職員：13名 非常勤職員：7名
専門職員	園長：1名 主任：1名
	保育士：12名 栄養士：1名
	調理員：4名 保育補助：1名
施設・設備の概要	保育室：2 トイレ：2
	調理室：有 事務室：有
	園庭：有

③理念・基本方針

<p>【保育理念】 「未来（あす）を生きる力を培う」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分らしく生きる道を歩み、どんな時代にも対応できる資質と能力を培います。</li><li>・1人1人に心をかけ、愛情を注ぎ、成長に合わせたきめ細やかな保育を行なうことで、変化の激しいこれからの社会を生き抜くための“生涯にわたる生きる力の基礎”を育みます。</li></ul> <p>【保育方針】</p> <p>「自ら伸びようとする力を支えます」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・子どもが本来持っている“育つ力”に注目し、周囲の環境に興味・関心を持って自ら関わろうとする意欲を支え、自信を育みます。</li></ul> <p>「五感を養って感性を豊かにします」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・身近なものに関わり、五感を使った実体験を積み重ねることで、豊かな感性を高め、思考力・想像力を育みます。</li></ul> <p>「後伸びする力を育みます」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・子どものありのままの姿を受け止め、共感し接することで、探求しやり抜く力、感情をコントロールする力、人と関わる力を育みます。</li></ul> <p>【園目標】</p> <p>「げんきにあいさつをしましょう・ものをたいせつにしましょう」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分の想いを相手に伝えられる子、相手の想いを受け止めてあげられる子を目指しています。日々の保育の中でSTEAMS保育や食育、戸外活動を通して様々な経験をしながらのびのびと成長できるようサポートします。</li></ul>
--

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

園は最寄りの駅から徒歩3分程度と利便性の良い環境にあります。園庭は小さく幼児があそぶには手狭に感じますが、近隣には蒔田公園を始め公園が多数あり、天気の良い日は基本的に  
戸外活動を実施し、四季を感じながら1年を過ごすことができます。

屋外活動の充実・・・天気の良い日は近隣の公園へお散歩へ出かけます。目的やその日の状況に応じて散歩先を決め、幼児クラスでは子どものリクエストで散歩先を決めることもあります。交通ルールやマナー、約束事を学びながら、行き帰りには地域の方々への挨拶もしています。乳児クラスは園庭で外遊びに慣れることからスタートし、園外活動に移行していきます。公園では季節や年齢に応じた遊び、自然に触れる機会を多く取り入れています。また、散歩ルートや公園は事前に職員が安全確認を行い、安全に活動が出来るように配慮しています。

キャストレッスン・・・英語、体操、リトミック、ダンス（幼児のみ）のキャストレッスンをそれぞれ月に2回ずつ実施しています。

食農活動・・・ビルの裏手にある園庭で栽培活動を行っています。季節に応じた野菜や花を子どもたちと相談し種・苗植えや水やり、収穫を楽しみます。収穫したものは給食やクッキング保育で使用します。

STEAMS保育の導入・・・STEAMS保育を導入し、様々な体験を通し自分で考え挑戦してみる、体験したことを言葉にしてみる力を育みます。ワクワクする体験をみんなで共有しもっとやってみたい、挑戦しようの気持ちを大切にしながら活動しています。

子どもによる選択・・・プログラム毎の活動は設けていますが、基本的に子ども自身のやりたい気持ちを尊重して実施しています。一斉活動に参加できなくても無理強いせず、本人の気持ちを尊重しています。自由あそびの際には好きなことにじっくり打ち込める環境づくりをしています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年8月1日（契約日）～ 令和6年3月13日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	11回（2018年度）

#### ⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子どもの意思、選択、自主性を大切にしています

園では、子ども自身のやりたい気持ちを大切にしています。プログラムごとの活動や一斉活動の時間も子どもの気持ちに寄り添い、活動の参加を強制せずに子どもが自ら参加できるよう見守り、対応しています。保育室のおもちゃは、箱に透明の窓を作り、何があるか子どもがわかるようにして好きな物を自由に取りれるよう工夫して配置しています。他のクラスのおもちゃを使いたい時、子ども自身が他のクラスの職員に直接伝えるなど、自発的に行動できる環境があります。食事も一斉に食べ始めるのではなく、自分の好きなタイミングで食べられるようにしています。

2)子どもの創造性を発揮できる保育プログラムに力を入れています

外部の専門講師によるアート鑑賞や創作遊びを通して、様々な表現活動を自由に体験

できるような場を作っています。子どもたちは完成した作品をどんな思いで作ったか、一人ひとり発表し、仲間に肯定的な言葉で認めてもらうことで創造力を広げています。科学・技術・工学・芸術・数学の5つの領域を対象とした理数分野に創造性教育を掛け合わせた教育理念であるSTEAM教育に、独自にSportsを融合したSTEAMS保育に力を入れています。片栗粉や重曹、色水などを使った化学反応の体験や環境保護など、物事を様々な面から捉え、子ども自らが新しい価値を創造する力を育てることができる保育を行っています。

### 3)安全と安心に配慮した保育を行っています

防災計画を整備し、毎月さまざまな災害や時間帯を想定した避難訓練を行い、子どもの安全のための取組をしています。地震や火事、水害時における垂直訓練、Jアラート訓練を行い、自衛消防隊を編成して災害に備えています。園内での事故発生時の対応マニュアルを整備し、緊急連絡・不審者対応時緊急連絡・火事の場合・救急の場合と各フローチャートを事務室に掲示し、様々な事故の対応手順を職員は理解しています。リスクマネジメントに関する職員の意識は高く、園全体の安全レベルの向上を目指し、専門的な事故防止の研修を受講して、「子ども安全マイスター」を取得しています。事業継続計画を策定し、災害時等の非常時に業務を継続できるよう事前対策や対応を明記しています。

### 4)発信力を向上し、地域からの認知度を高める取組に期待します

地域とのつながりを、さらに強めていきたいと考えています。子どもたちはお散歩のときに、地域の人々に挨拶をしています。町内会の夏祭りに参加し、子どもたちは神輿を担がせてもらっています。近所のピザ屋さんとは、毎年ピザ焼きの体験をさせてもらう関係があります。園庭開放、交流保育のイベントを通じて、地域の子育て支援を積極的に実施しています。それでも町内会など地域との関わりは十分ではないと感じており、園の認知度を高めるために、掲示板の設置も計画しています。今後の園の発信力の向上を期待しています。

### 5)実効性のある事業計画の策定が望まれます

毎年度の事業計画の内容は、中・長期計画の内容を反映していることが求められます。また、事業報告では具体的な活動実績を示し、自己評価や保護者アンケートなどで各年度の取組を振り返る中で、到達点や課題を分析して次年度の事業報告につなげていくことが必要です。園運営全体のPDCAのサイクルを、事業計画の策定、実践、評価、実行のなかで具現化していくことが望まれます。

## ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

職員それぞれが自己評価を行い、さらにグループワークで意見交換を行いました。その後、第三者の目から見ていただくことにより、自園で実施できている良い点、今後改善していくべき点や力を入れていけると良くなるであろう点が明確化しました。また、職員全体で保育を見直しことで職員同士の考え方の統一や運営方針や理念、今後園が目指していく方向性を再確認することができました。今後の課題は、園の情報を積極的に発信し、地域に根差した保育園づくりを行っていくことです。ここ数年で地域交流の輪を広げてはいますが、閉鎖的にならずに園の情報を発信したり地域のイベントなどにも目を向け保育園の専門性を活かしながら、課題に取り組み、気軽の立ち寄れる相談場所として地域に定着できるよう努力していきます。また、限られた環境ではありますが、子どもたちが活動しやすい環境づくりを行うことで、主体性を大切にされた保育を引き続き行っていきます。また、今回評価していただいた子どもの創造性を発揮できる保育プログラムをさらに充実させることで保育園にいながら様々な体験が

出来るよう引き続き尽力してまいります。来年度以降も引き続き、職員が働きやすく、楽しんで仕事に取り組める職場を目指し、そして利用者のニーズに耳を傾け、それに沿った保育サービスを提供していけるよう、また、利用者以外の地域住民にも親しみのある、地域に根差した園になれるよう、評価結果を真摯に受け止め、職員の意識向上と保育の質向上へとつなげてまいります。最後に、受審にあたりご尽力いただいた、評価機関の皆様、ご多忙にも関わらず、利用者調査にご協力いただいた在園児の保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり